

## Criteo、米Mabaya社を買収

### オンラインマーケットプレイス向けリテールメディアソリューションを拡大

Criteo のコマースメディアプラットフォーム戦略と、  
2021年第1四半期に前年比122%の成長を遂げたリテールメディア事業を加速

世界のメーカーへ信頼と効果の高い広告展開を提供するグローバルテクノロジーカンパニー、[Criteo](#) (NASDAQ: CRTO)は、世界の主要なオンラインマーケットプレイスにおけるスポンサー製品やリテールメディアの収益化を可能にする、リテールメディア分野の大手テクノロジー企業である Mabaya 社（以下 Mabaya）を買収したことを発表しました。

Mabaya の買収は、Criteo のコマースメディアプラットフォーム戦略を実現する上で重要であり、マーケットプレイスのセラーとブランドが商品の販売を促進できるよう支援する Criteo の事業が強化されるだけでなく、小売業者とマーケットプレイスによる新しいリテールメディア収益源の拡大を可能にします。Mabaya のテクノロジーは、業界をリードしている Criteo のリテールメディアソリューションをさらに強化、補完するものです。Criteo のリテールメディアソリューションは、オムニチャネルの小売業者、ブランド、代理店が EC の Web サイトやアプリでファーストパーティデータを活用した広告を提供できるようにするほか、オフサイト広告を提供しショッピングジャーニーのあらゆる段階にわたって購買客をエンゲージしていくことを可能にします。

Criteo は、Mabaya の買収により、マーケットプレイスおよびマーケットプレイスのセラーとブランドによる独自のニーズに合わせて最適化したリテールメディアソリューションを提供できるようになります。また、従来型のオムニチャネルの小売業者が自社のオンラインマーケットプレイスビジネスを成長させるためのサービスを提供する Criteo の機能がさらに強化されます。

Criteo のポートフォリオ成長戦略担当 GM 兼 EVP であるジェフリー・マーティン（Geoffroy Martin）は次のように述べています。「Criteo は、クローズドプラットフォーム外の大規模かつオープンなリテールメディアエコシステムをすでに強化していますが、Mabaya の買収によって、マーケットプレイスとセラーのニーズにより適切に対応できるようになりました。マーケットプレイスは、消費者が幅広く豊富な品ぞろえの中から商品を見つけて購入できるようにする上で必須な機能です。急成長を遂げているこの市場セグメントを支援することは、Criteo にとって大きな成長のチャンスです。Mabaya のテクノロジーがソリューションに加わったことで、当社はこの極めて大きい市場機会が期待されるリテールメディアの分野において、他の企業に一線を介して優位に対応できるようになりました」



昨今の EC 市場の拡大により、Criteo リテールメディア事業の需要は増しており、100 社以上のグローバルな小売業者、5 大持ち株会社を含む 120 社以上の代理店パートナー、1,000 以上のブランドへとリーチを拡大しています。EC 市場の競争がますます激しくなる中で、2020 年に Criteo リテールメディアは 53%の成長を遂げ、小売業者において 4 億ドルの広告収益を、ブランド広告主において 33 億ドルの売上をそれぞれ創出しました。直近の四半期では、Criteo リテールメディアの成長率が前年比 122%と飛躍的に加速しています。

Mabaya の CEO であるジョナサン・コーガン（Jonathan Kogan）氏は次のように述べています。「当社は、マーケットプレイスがスポンサー商品広告によってセラーやブランドにエンゲージし、トラフィックを収益化できるよう、最先端のツールの開発と提供を進めてきました。Criteo のテクノロジーや、グローバルな規模とリーチによって、当社がこれまで生み出してきた勢いを足掛かりに、新たな市場に向けて急速に規模を拡大し、Criteo のテクノロジーと統合されたさらなるソリューションを提供する絶好の機会がもたらされます」

#### ■Criteo (クリテオ) について■

Criteo (NASDAQ : CRTO) は、世界のマーケターへ信頼と効果の高い広告展開を提供するグローバルテクノロジーカンパニーです。世界20,000社以上の広告主、数千のパブリッシャーと連携して得られる膨大なデータを機械学習を用いて精密に分析することで、全ての広告チャネルを通じた効率的な広告配信を実現します。Criteoはテクノロジーを通じて、あらゆる規模の広告主に対し、ユーザーが本当に求めているものに出会える仕組みを提供します。

※CRITEO株式会社はその日本法人です。[www.criteo.com/jp/](http://www.criteo.com/jp/)

#### 将来の見通しに関する記述

本プレスリリースには、過去の要因ではなく、実際の結果と大きな乖離の原因となり得るリスクや不確実性を含む今後の製品や、今後明示される可能性がある見通し、その他記述などの「将来の見通しに関する記述」が含まれます。こうした要因には次のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。テクノロジーの変化に対応する当社の革新的なテクノロジーおよび能力に関連した失敗、従業員、業務、収益、キャッシュフローへの COVID-19 パンデミックによる規模と影響に関する不確実性、インターネットディスプレイ広告在庫の一貫した供給にアクセスし、その在庫を拡大する当社の能力の不確実性、Google が発表した Chrome ブラウザの変更案と機能強化のタイミングと規模に関する不確実性、新しいビジネス機会への投資と投資のタイミング、買収の予想利益が期待通りに実現する可能性、国際的な成長と拡大に関する不確実性、競争の影響、データのプライバシー問題に関する法的、規制の、または自主規制の進展に関する不確実性および同業他社による準拠の影響、データの収集と共有に対する消費者の抵抗の影響、サードパーティを介してデータにアクセスする当社の能力、費用対効果が高い当社のブランド強化の不可能、将来の成長が明示されていない最新の業績、成長および業績の潜在的な変動を管理し、クライアントの基盤を拡大する当社の能力、TAC を除く収益が最大化する経済的影響ならびに、未知の財務実績と結果の不確実性含む将来の機会と計画に関連するリスク。これらリスクは、Risk Factors (リスク要因) ならび、2021 年 2 月 26 日に発表された Form 10-Q の四半期報告書、その他、証券取引委員会届出書類などに記載されています。現時点では、COVID-19 のパンデミックは、Criteo の事業、財政状態、キャッシュフロー、および業績に大きく影響を及ぼしています。この影響の期間と程度は、著しい不確実性があります。法律で義務付けられている場合を除き、当社は、新しい情報、将来の出来事、期待の変化などの結果として、本リリースに含まれる将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。

\*本リリースは[グローバルで発表されたプレスリリース](#)の翻訳です。

本件に関する報道関係者お問い合わせ先  
CRITEO 広報担当 酒井  
CRITEO 株式会社 PR 事務局 (アリソン・アンド・パートナーズ株式会社内)  
E-mail : [criteo\\_pr@allisonpr.com](mailto:criteo_pr@allisonpr.com)